

1960-4

- ① 昭和35年度の事業計画……………2
- ② ボーリング用ビットのいろいろ……………4
- ③ フランスのウラン探査……………10
- ④ 鉱物の単体分離……………14
- ⑤ インド産岩石の標本……………19
- ⑥ 天然記念物(2)……………20
- ⑦ 地質調査所の各部課を尋ねて(1)……………22

地質ニュース No. 63

表紙の写真

讃岐富士 四国路④ (5万分の1丸龜)

四国に渡った人々は まず讃岐平野に端正な円錐峰をみる。 坂出市の南方約5 kmにある飯野山(422 m)である。

領家花崗岩上に流出した「讃岐岩」(サヌカイト)が 侵食から残ったビューで独立の火山ではない。

サヌカイトは 黒色も密な安山岩の一種で 斜長石に乏しく 斜方輝石の小斑品に富み ハリ質であるため 俗にカ:カン石といわれるほどよい音を出すので有名である。(石)

プリモオート トアコール75mm ネオパンSS f11  
1/100秒 UV D-76 日光 V-3 FD-105

# 昭和35年度の事業計画

国土の有効利用と その開発に対する要請に関連して最近 地質学・地球物理学・地球化学等の演ずる役割はいよいよ重要性を増しているが 地質調査所はその総合的技術機能を発揮して これらの事態に対処しうる研究の推進と研究体制の強化に意を用い 昭和35年度には次のような研究計画を行う予定である。

以上の多くは前年度からの継続研究として行われるが本年度の新しい方向として

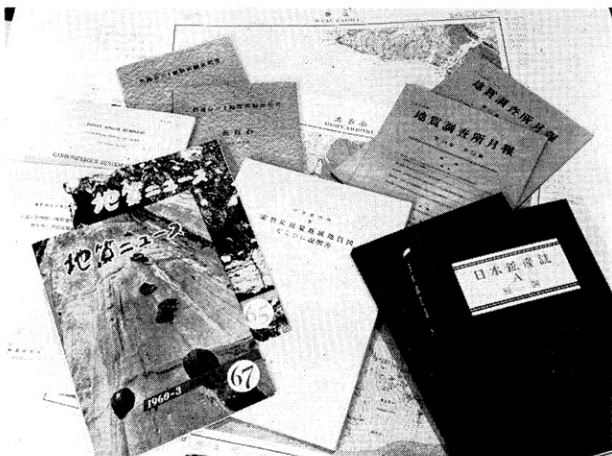
- (1) 炭田ガスについては 調査方法の改善と確立に主眼をおき 石炭局等所外機関とも協同して 研究を進める
- (2) 物理探査法のうち 音波法(スパーカー)の装置の試作・研究を新しく取り上げる
- (3) 工業用水源の調査は その規模を拡大するとともに工場排水の地下還流テストを強化する
- (4) 新潟市周辺の地盤沈下対策調査として アイソトープを装置した坑井の地盤収縮量の測定 および水の地下圧入による沈下防止の試験を実施する
- (5) 核原料物質調査は 新第三系等に賦存が予想される堆積型鉱床の調査・研究に 重点を向ける
- (6) 国際会議の参加・出席と海外における地質的資料の収集等による国際的技術交流にも意を用いる

なお 工場基盤 都市地盤の調査・研究については 建設省との協同等によってこれを促進せしめ 応用地質学的な新しい分野の開拓を心掛けていく方針である。

(企画課)

特別研究費等による調査・研究

特別研究費等による調査・研究	(件)	経常研究費等による調査・研究・編集	(件)
地熱開発調査・研究	2	5万分の1地質図幅調査・研究	29
炭田ガス調査・研究	5	応用地質調査・研究	2
海陸地帯の総合調査・研究	7	石炭調査・研究	14
深部物理探査法の研究	3	石油・天然ガス(水溶型)調査研究	14
工業用水源の保全等調査・研究	14	金属および硫化鉱調査・研究	20
工場排水の地下還流調査・研究	4	非金属鉱床の調査・研究	9
特定地域5万分の1地質図幅調査	11	物理探査・地球化学等の研究	14
ドロマイト(苦灰岩)資源調査・研究	6	特殊地質図等の編集	8
低品位鉄鉱調査・研究	18	中小鉱山の技術指導(相談業務)	(多数)
新潟地盤沈下調査・研究	4		
核原料物質の調査・研究			



地質調査所の出版物